

赤潮発生動向調査

植物プランクトンの大増殖による海水の変色現象を赤潮といいます。赤潮は景観を損ねたり、大量のプランクトンの遺骸が岸に打ち寄せて異臭を放ったりして人々を困らせるばかりでなく、魚介類を死亡させたり、ノリなどの海藻の生育に被害をもたらすことがあるため、水産業にとっても大きな脅威となっています。

現在赤潮の発生を未然に防ぐことは困難ですし、発生した赤潮を消滅させる手段も十分ではありません。このため発生をできるだけ早く察知し、被害の軽減と防止対策を迅速・的確に講じることが求められています。

赤潮の発生は、海域に流入するリンや窒素の削減により減少傾向にあるようです。神奈川県が面する東京湾では、1990年代後半から2000年代にはラフィド藻の一種であるヘテロシグマ・アカシオが頻繁に赤潮を形成していましたが、最近は大規模な増殖が見られなくなっています。相模湾では、潮目（沿岸水と沖合水の境界）や海岸に沿うように紅い帯状のヤコウチュウによる赤潮が見られることがあります。



海面を赤く染める赤潮



赤潮原因種の1つヤコウチュウ

